

大阪唐木指物

【産地組合】大阪唐木指物協同組合

（産地紹介）

日本において、唐木の歴史は古く、奈良時代の遣唐使によって唐木製品が持ち帰られました。日本にはない珍しい木が使われていたため、この木をトウの木、カラ木と呼んだことが唐木指物のいわれです。江戸時代に入ると、唐木材は全て長崎に運び込まれ、大阪の薬種問屋が引き受けていました。この頃職方の制度も整い、唐木の職人も次第に増え、大阪は唐木指物の本場となったのです。



大阪の唐木製品は手作りで、伝統的な技術・技法を用いて、現在の生活様式に合うように工夫、改良されています。紫檀・黒檀・花梨・鉄刀木（たがやさん）などの唐木を素材とし、飾棚や茶棚をはじめ、座敷机、花台などが主な製品です。堅牢さと深い趣には定評があり、広く人々に認められ価値あるものとして重宝されています。